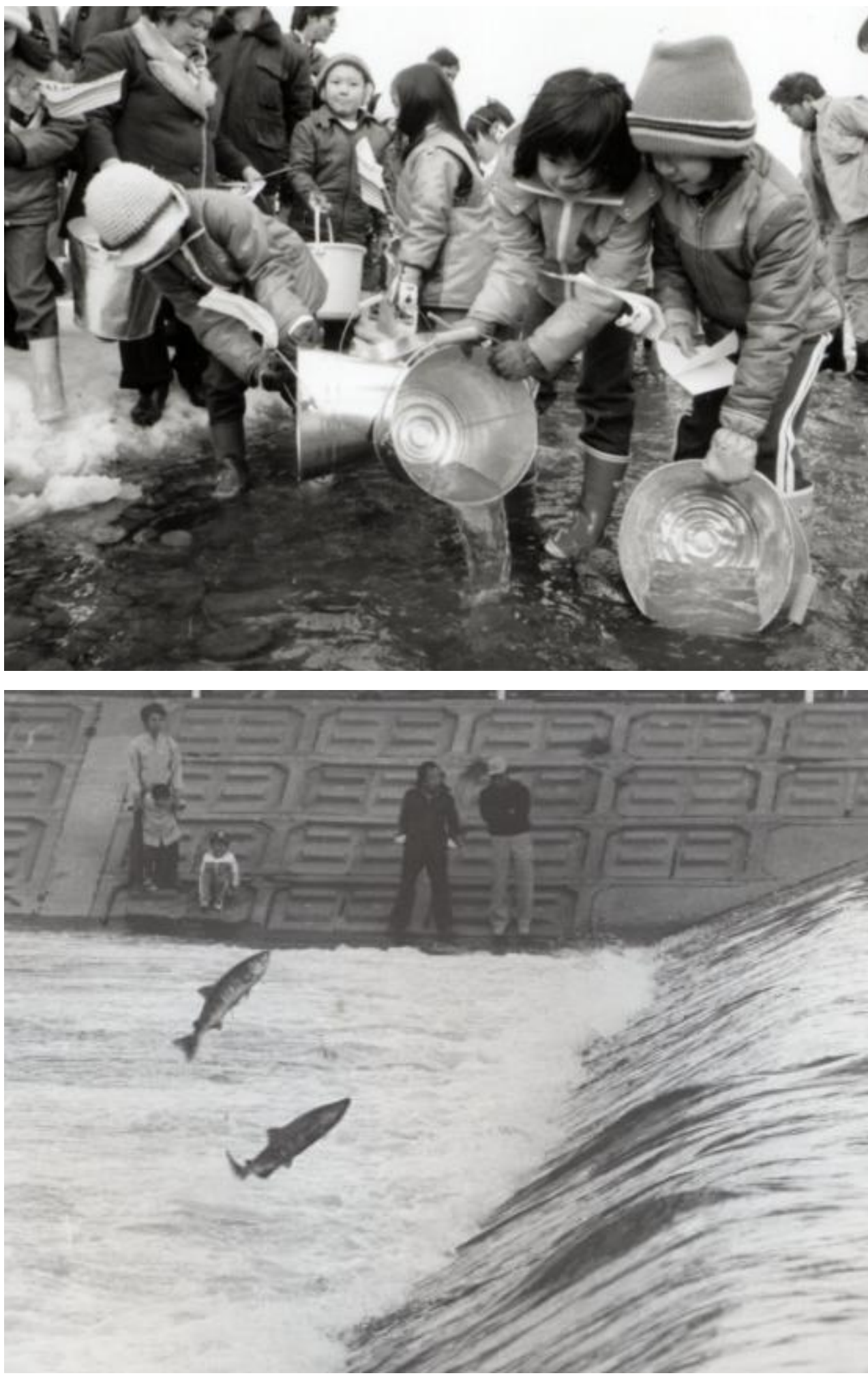


大事な
おしらせ

サケは、札幌の環境保全のシンボルです。
豊平川では、**放流から環境改善に転換し**、
サケの保全活動が続けられています！



1978年～ 稚魚を放流してサケをもどす
『カムバックサーモン運動』

2014年～ 産卵環境を復元して、野生のサケを増やす
『札幌ワイルドサーモンプロジェクト』 (図1)

1. 豊平川のサケは、野生魚が多い！

- 野生魚割合の変化をモニタリングするため、放流魚の耳石には温度標識を付けています (図2)。
- 自然産卵生まれの野生魚が、人工ふ化の放流魚より多く、**大都市のサケとしては珍しく、とても貴重です** (図3)。

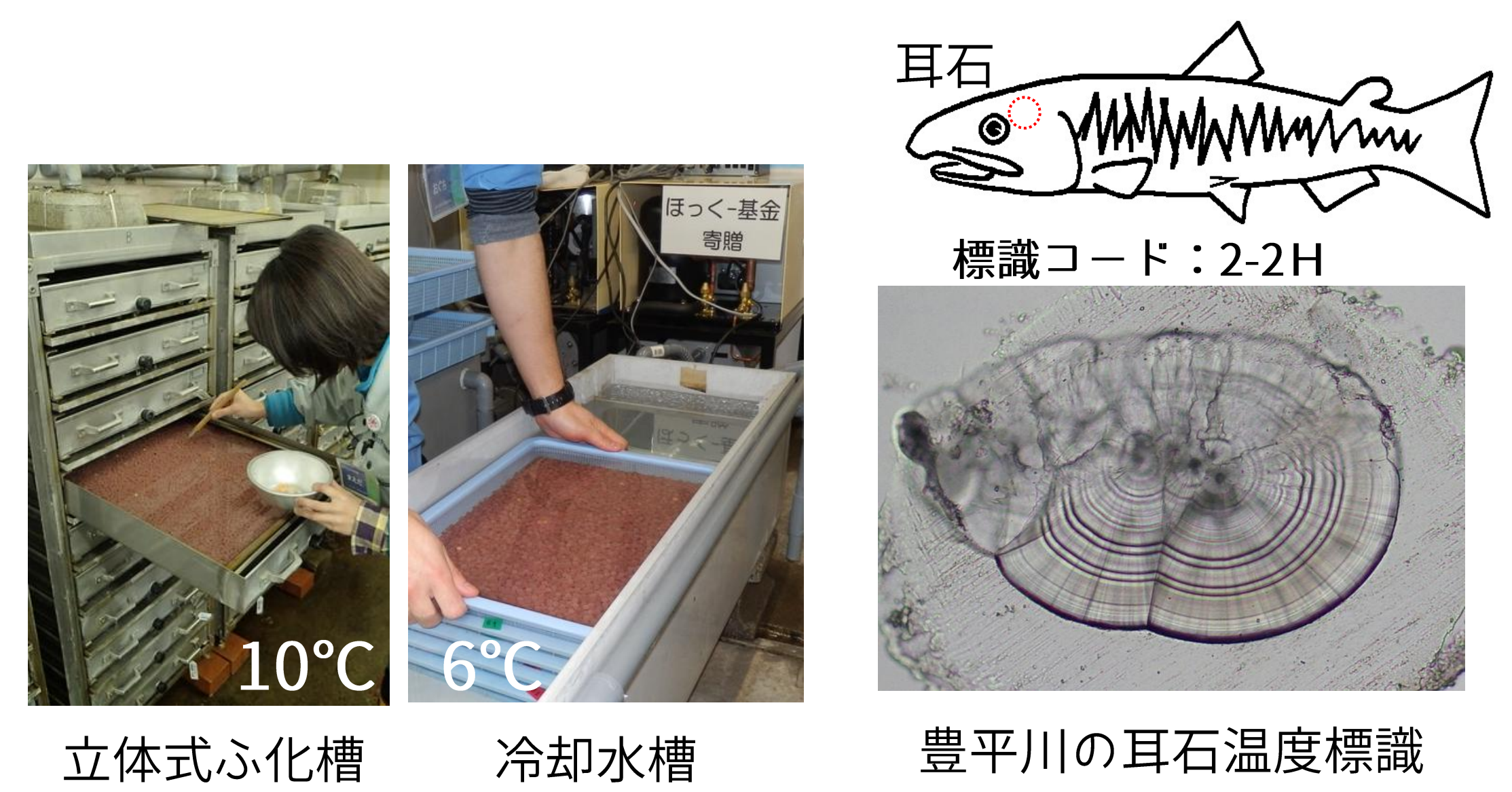


図2. 耳石温度標識放流

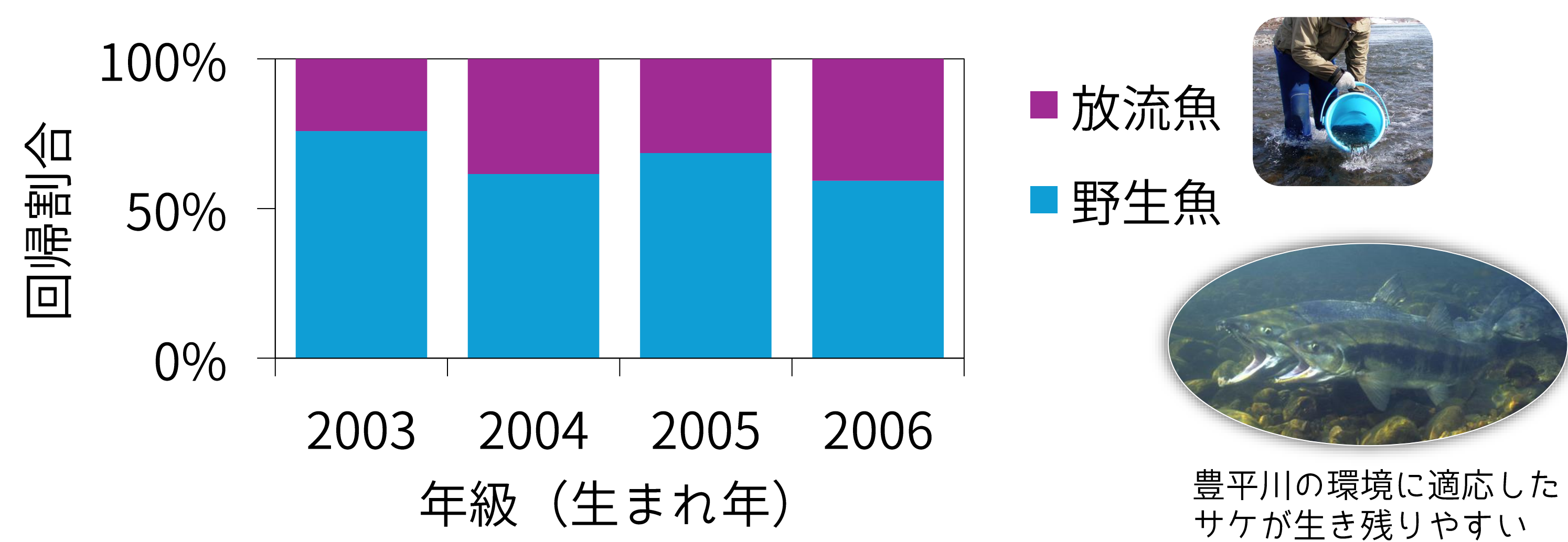


図3. 豊平川に遡上するサケの割合

2. 将来のために放流数を減らし、野生魚の割合を増やす

- 野生魚を増やすことが将来の豊平川のサケのためにつながると考え、2016年から**放流数を減らしています** (図4)。
(遡上数の5年平均が1000尾以上の場合は放流数を減らす『放流数の順応的管理』を導入)
- 河川管理者や地域貢献に参加する企業と協力して、**産卵環境を改善しています** (図1)。
- 現在のところ、放流数を減らしても遡上数は維持されており (図4)、野生魚割合は少し増えました (図5)。
- 都市の河川は人間活動の影響を多く受けるため、環境改善を継続し、野生魚の割合を高めていきたいと考えています。

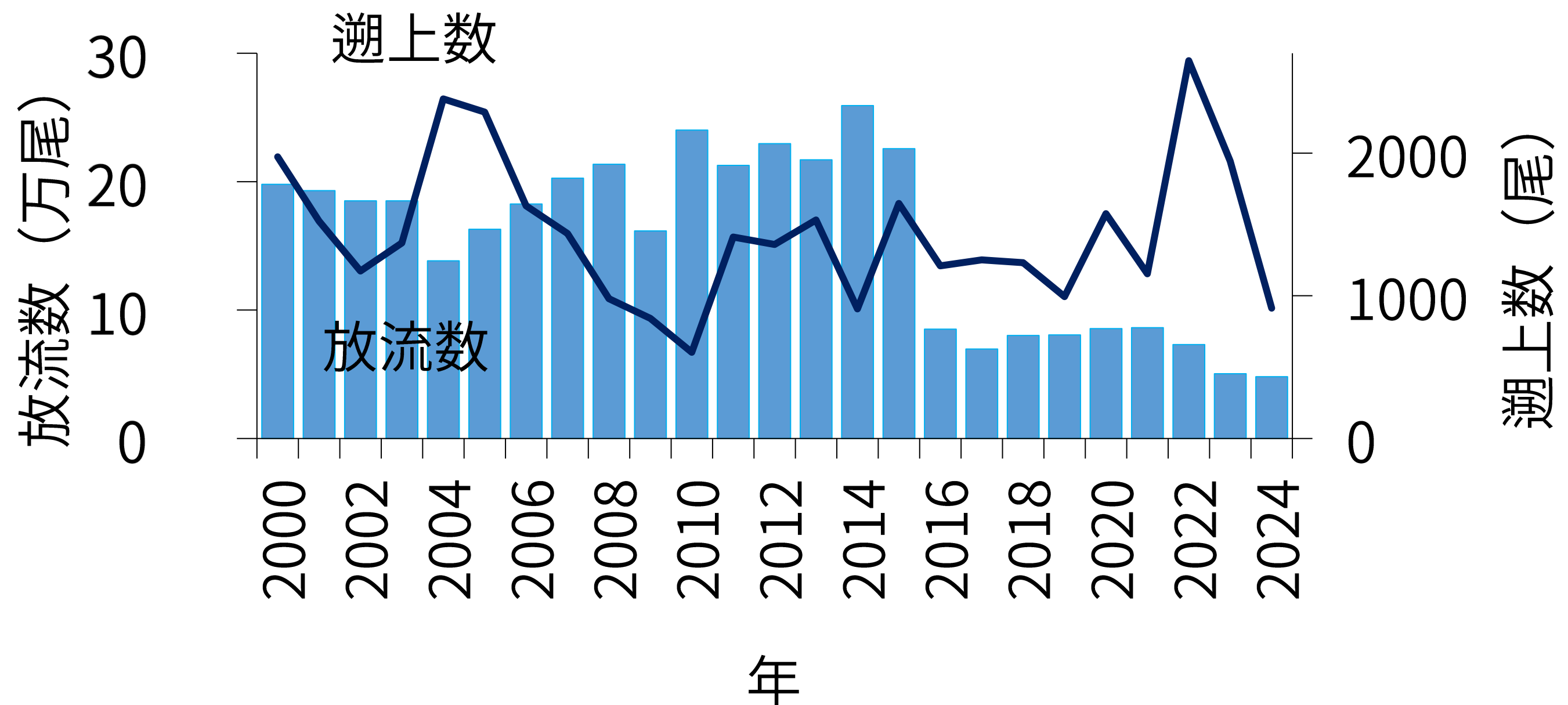


図4. サケの遡上数と放流数

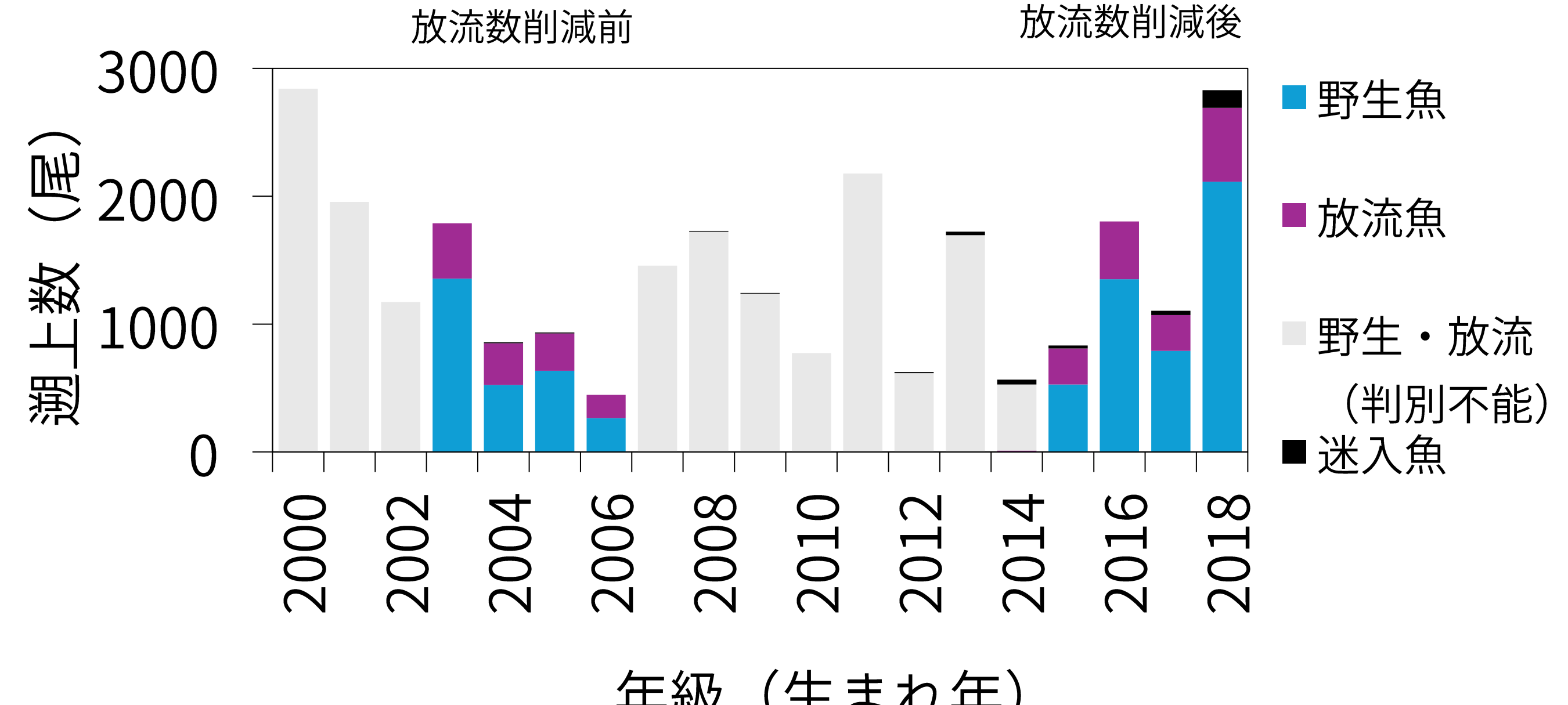


図5. 放流数削減前後の内訳

札幌ワイルドサーモンプロジェクトは、さけ科学館と研究者、河川管理者、行政、コンサル、マスコミが連携し、たくさんの企業の支援を受けながら活動しています。